

議 事 録

会議の名称	平成 27 年度第 1 回茨木市立文化財資料館運営審議会
開催日時	平成 26 年 5 月 19 日 (火) (午前・ 午後) 6 時 0 0 分 開会 (午前・ 午後) 7 時 0 0 分 閉会
開催場所	文化財資料館 2 階 研修室
出席者	委員長：瀧端 真理子 (追手門学院大学心理学部教授) 委員：松田 八重子 (茨木市文化財解説員) 足立 久美子 (公益財団法人 堺都市政策研究所理事) 白井 亮吾 (茨木市小学校社会科研究部会副部長 (豊川小学校)) 辻尾 榮市 (大阪府立大学客員研究員) 難波 洋三 (奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター長) 若林 邦彦 (同志社大学歴史資料館准教授) 泉 章子 (茨木市立東奈良小学校校長) (敬称略) 【計 8 人】
欠席者	副委員長：岡市 正規 (茨木神社宮司) 中谷 早苗 (千提寺キリシタン遺物保存会役員)
事務局職員	八木 章治 教育長、久保 裕美 教育総務部長、 森岡 恵美子 教育総務部次長兼社会教育振興課長、 岡田 祐一 文化財資料館長、前田 聡志 文化財係長、 黒須 靖之 学芸員、清水 邦彦 学芸員、高橋 伸拓 学芸員 【計 8 人】
開催形態	公開 / 非公開
議題 (案件)	(1) 平成 26 年度文化財資料館等事業報告について (2) 平成 27 年度文化財資料館等事業計画について
配布資料	平成 27 年度 第 1 回 茨木市立文化財資料館運営審議会 資料

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 要 旨 ・ 決 定 事 項
事務局	【開会】
教育長	【開会挨拶】
事務局	【事務局職員の紹介】 平成 27 年 4 月 1 日付け人事異動に伴う事務局職員の紹介。
事務局	【会議の成立】 全委員 10 人中 8 人出席につき、茨木市立文化財資料館運営審議会規則第 4 条第 3 項の規定により、本会議は成立する旨を説明。
委員長	会議の公開・非公開について決定したいと思いますが、公開ということ でよろしいでしょうか。 (異議なしの声) 本会議は公開と決定いたします。本日、傍聴人はいますか。
事務局	1 人います。 (傍聴人入場)
《案件 1 平成 26 年度文化財資料館等事業報告について》	
委員長	では次第に従い、報告事項の「平成 26 年度文化財資料館等事業報告につ いて」、事務局から報告、説明をお願いします。
事務局	平成 26 年度文化財資料館等事業報告資料をもとに説明。
委員長	説明ならびに報告事項について、意見・質問等をどうぞ。
A 委員	平成 26 年度の事業を実施したなかで、どんなところに手ごたえを感じた でしょうか。
事務局	文化財資料館開館 30 周年の記念事業は最も力をいれた事業であること もあり、手ごたえがありました。具体的には、テーマ展期間中の入館者は 去年の同事業より 100 名程度増えており、関連事業も普段の講演会だけで

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 要 旨 ・ 決 定 事 項
	<p>はなく、対談やミニシンポジウム、学芸員講座も多く実施しました。そのなかには、東京や富山など遠方からの参加者もおられ、本市の文化財が大阪府周辺のみならず、全国に知られてきたと感じております。また、図録を初めて刊行しましたが、展示期間中におよそ 400 部売れました。通常、特別展などに伴う図録は来場者の 5%程度が購入数ですが、テーマ展期間中の入館者数に対し 15%近い部数が購入されており、図録も好評であったと考えています。</p>
A 委員	<p>漫然と事業を実施しているわけではないということですね。内部でも前向きに、次はこれをやっていこうというような雰囲気があるのでしょうか。</p>
事務局	<p>内部でもそのような気運があると思いますし、案件 2 の今年度の事業計画でも、新たな取り組みについてご報告させていただきます。</p>
委員長	<p>B 委員は、テーマ展の関連事業のミニシンポジウムの講師をされていますが、ご感想やご意見があればお願いします。</p>
B 委員	<p>非常に熱心な方が大勢いました。遠方からの参加者もあり、非常に盛況でしたし、質問等も熱心にされていました。一緒に話したのが、実際に鑄造をしている小泉さんであり、私とは違う視点で物事をおっしゃるので、参加者も興味深かったのではないかと思います。事務局学芸員にも参加していただきましたし、楽しかったです。私もやりがいがありました。</p>
C 委員	<p>イオン茨木ショッピングセンターで初めて展示を実施されています。すごく大変だったと思います。入場者が 2 日間で 911 人もあり、館で実施した場合と人数にかなりの差がありますが、資料館での展示とショッピングモールでの展示では、客層や反応はどのような違いがあるのでしょうか。一番良いのは、イオンの展示を見た人が資料館を訪れることだと思いますが、イオンで展示をした効果はいかがだったのでしょうか。</p>
事務局	<p>入場者数という意味では、成功だったと考えています。ただし、ご想像のとおり、わざわざ館に展示を見に来られた方と、買い物のついでに立ち寄られた方では、熱意や滞在時間等の点でやはり異なりました。事務局でも、文化財資料館等への誘導として、記念品付のスタンプラリーを実施しましたが、人数は非常に少なかった。このような客層の館への誘導については、今後も検討していきたいと思います。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 要 旨 ・ 決 定 事 項
委員長	スタンプラリーの記念品は、どのようなものを用意されていきましたか。
事務局	キリシタン遺物史料館開館 25 周年記念事業で制作した、クリアファイルの残部があったため、これを記念品として用意しました。記念品は会場にも並べておきました。
委員長	良い記念品ですね。こうした事業を積み重ねていけばよいのではないのでしょうか。
D 委員	<p>学校連携の面からご意見申し上げます。茨木市教育研究会小学校社会科部会において、畑田小学校で「くらしのうつりかわり」の研究授業を実施しました。その際に、事務局学芸員に講師として来ていただき、好評を得られました。今後も学校での出張を可能にしてみたいと思います。</p> <p>6 年生の歴史学習では、資料集を見ますが、実際に触って、見ることができるこの館での見学は大きな意味があると思います。6 年生は何校が来館されたのでしょうか。</p> <p>現在、学校では徴収金システムとして、年度当初に費用を集めています。早い段階で、文化財資料館の事業について知ることができれば、出向くことができます。</p>
事務局	6 年生は 4 校が来館されました。市北部からは、文化財資料館の立地の関係で来館していただくのが難しいところがあります。文化財資料館の事業についての学校への周知は、校長会では5月の最初になってしまいますので、年度末の校長会で周知して、4月から動いてもらえたらと思います。この点については、館の課題でもありますので、検討させていただきたいと思います。
委員長	市からのバスは出せないのでしょうか。かなり無理なお願いかもしれませんが。
事務局	<p>出前講座を活用していただきたいと考えております。こちらから資料をもって、教室で授業を行います。館に来ていただくのか、もしくは出前講座を利用するのかどちらにせよ、かならずこのような体験を小学生にさせていただくのが、望ましいのかなと思います。</p> <p>また、補足いたしますと、福井小学校の 2 クラスの児童に、福井城の発掘体験を実施しました。今後、学校の近くで発掘調査がありましたら、このような、生の歴史にふれてもらう機会を増やしたいと考えています。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 要 旨 ・ 決 定 事 項
委員長	<p>学校に負担をかけず、館の方から出て行くのであれば、うまくいきそうですね。</p> <p>《案件2 平成27年度文化財資料館等事業計画について》</p>
事務局	平成27年度文化財資料館事業計画資料をもとに説明。
委員長	説明ならびに報告事項について、意見・質問等をどうぞ。
A 委員	今年度、手ごたえが得られそうな事業はどちらになりますでしょうか。
事務局	<p>昨年度に引き続き、館の目玉となる事業はテーマ展になります。昨年度は、免山篤コレクションという非常に充実した資料群の魅力に頼る部分がありましたが、今年度は埋もれているテーマを館の学芸員が調査研究をして掘り起こしていくという作業が重要になります。また、館報を新規で作成します。従来、紙媒体の情報発信が少なかったので、図録・館報をともに充実させていくことで、館や本市の文化財の情報発信をしたいと考えております。</p>
委員長	今年度はE委員、C委員が講座でご協力する、またE委員は昨年度調査にも協力されたとのことでした。E委員にご質問ですが、昨年度の調査を踏まえて、講座や調査・研究面で何かご要望はありますか。
E 委員	B委員もおっしゃっていましたが、集客もできており、来ていただいている方のレベルも高く、こちらも講演のやりがいがあります。また、館の運営についてもうまく進められていると思いますので、とくに要望はありません。
委員長	C委員はいかがでしょうか？
C 委員	今年、講座で話をさせていただきますので、こちらこそよろしくお願ひします。館報についてですが、私も勤務先が小さな館で入館者数も同程度ですが、館報を作成しています。大学も収蔵資料がたくさんあって、過去の調査資料や報告されていない資料があります。館報は大変便利で、少しずつ整理した資料について館報を通じて資料紹介ができます。このような学術的な部分もあるが、日常的な活動についても紹介することができる。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 要 旨 ・ 決 定 事 項
	<p>現状ですと、運営審議会委員や限られた公開になりますが、印刷物になれば、気軽に誰でも見ることができます。</p> <p>発行する際は、紙だけでなく、PDF版にして、ホームページにアップし、毎年出すとよいと思います。ホームページの内容を作ろうとすると、それだけで大変だが、館報を作成し、ホームページに載せると、市民や専門家への公開ができるので、大変だと思いますが、必ずこれを書かなければいけないというのは案外よいハードルで、ルーチンにするというのはとても良いことだと思います。私どももそうしています。ぜひ活用してほしい。</p> <p>たとえば、図録が予算の都合上刊行できなくても、館報を通じて、そのような活動をしていくこともできます。それは大事なことだと思います。それとWEB公開も考えていただければと思います。</p>
委員長	<p>館報のなかに、研究報告や調査報告的なものと、いわゆる年報的な事業報告を合冊しているということですか。</p>
C委員	<p>我々もそのようにしています。我々としても良いですし、それをホームページで公開するとそれを見ることができます。そのような館報はありと大変便利です。おすすめします。</p>
委員長	<p>ホームページでの公開はどうされますか。</p>
事務局	<p>現在、文化財資料館のページは、市役所のホームページ内にありますが、独自のページを製作について検討していきたいと思っております。そこでのPDFの公開も検討していきたいと思っております。</p>
C委員	<p>図書館等で独自のホームページを持っているようなら、図書館から館報を公開するのもどうでしょうか。オリジナルのページを作るのは大変だと思います。</p>
委員長	<p>非常に貴重なご意見ありがとうございます。ほかはいかがでしょう。ないようでしたら、次年度の事業計画につきましては、事務局提案のとおり進めていただき、次年度の審議会で報告を受け、審議することによろしいでしょうか。なければ、ここで事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>本日はご審議いただきありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>